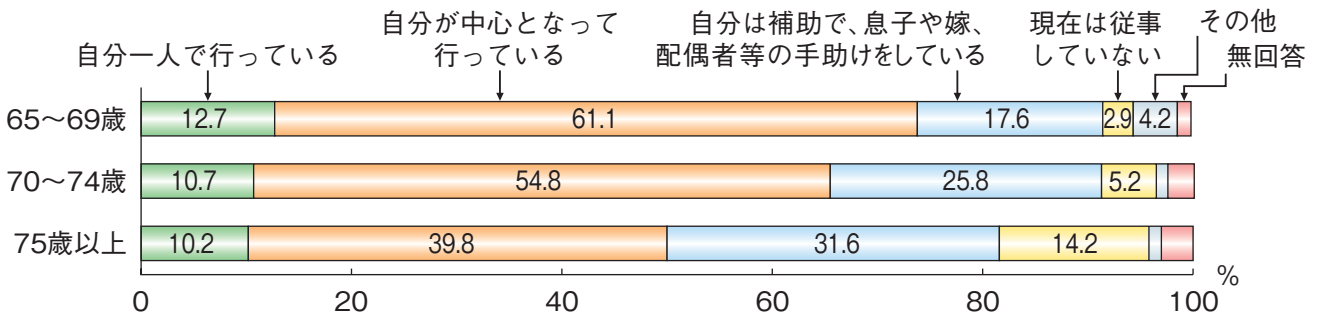


(5) 高齢農業者の活動状況

- 農業者の高齢化が進行するなか、高齢農業者の普段の農業へのかかわりをみると、「自分が中心となって行っている」、「自分1人で行っている」者の割合は、65～69歳74%、70～74歳66%。農業者は、高齢者に「地域の文化・伝統の伝承」、「地域問題についての調整役、取りまとめ役」等を期待。今後、高齢農業者の活動のための環境整備が必要。
- 農作業死亡事故は、平成20年（2008年）は400件弱となっているが、65歳以上の高齢者の事故の割合は全体の79%。最大の死亡事故要因となっている「農業機械の転落・転倒事故」の防止等に向けて、全国の行政機関や農業機械販売店等に呼びかけて、農作業安全確認運動を展開。

3-56 高齢農業者の農業への普段のかかわり方

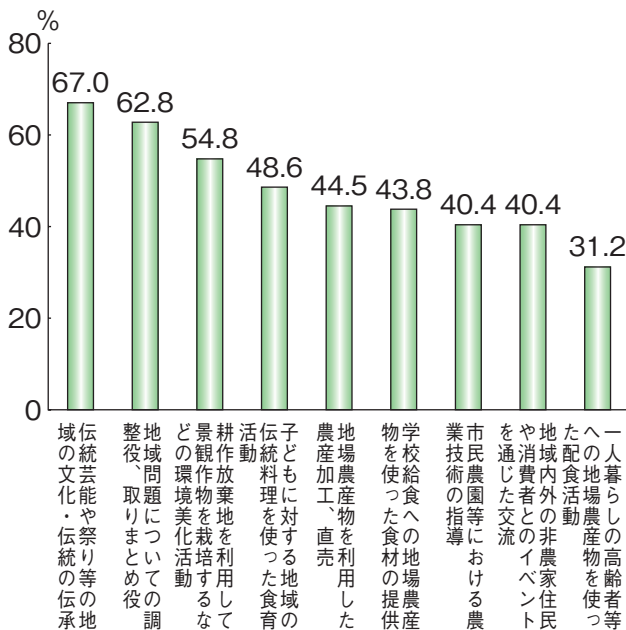


資料：農林水産省「高齢農業者の営農や地域活動への参画に関する意向調査」（2009年3月公表）

注：1) 2005年農林業センサス時点の年齢が62歳以上で自営農業に従事している者2千人を対象として実施したアンケート調査（回収率62.1%）

2) 年齢階層は、2005年農林業センサス時点の年齢に3歳加算した2008年調査実施時点の年齢

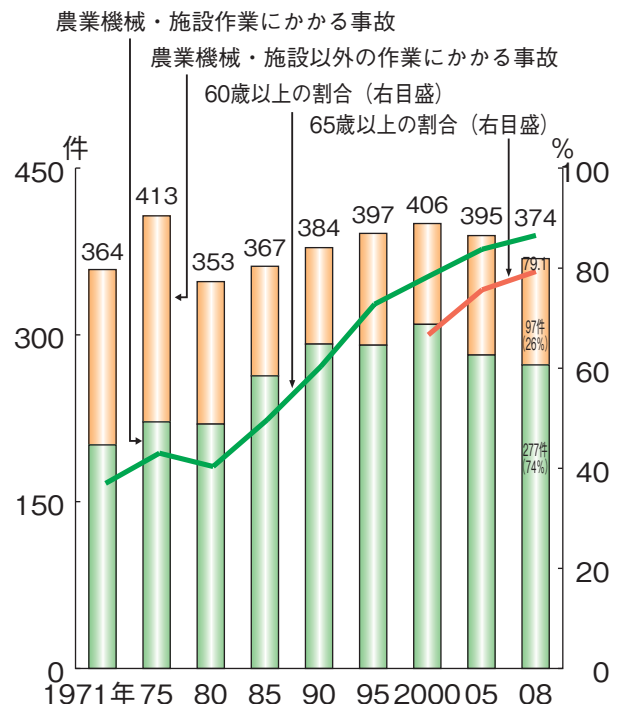
3-57 農業者が高齢者に望む地域活性化のための活動（複数回答）



資料：農林水産省「食品及び農業・農村に関する意識・意向調査」（2010年4月公表）

注：農業者モニター2,500人を対象として実施したアンケート調査（回収率78.9%）

3-58 農作業中の死亡事故発生件数と高齢者の占める割合の推移



資料：農林水産省「農作業事故調査結果報告書」